

授業テーマ

ビュッフェ体験を設定することで、欲しいものを丁寧な言い方で尋ねたり答えたりする表現に慣れる授業

第5学年3組 外国語活動学習指導案

平成29年1月25日(水) 第5校時

場所：多目的室 指導者：後藤 健一(担任)

池田 千恵(EAA)

大和田智子(英語教育推進教師)

1 単元名 What would you like? (Hi, friends! 1 Lesson 9)

2 単元の目標

- 欲しいものについて丁寧に積極的に尋ねたり答えたりしようとする。【コミュニケーション】
- 欲しいものについての丁寧な表現の仕方や尋ね方に慣れ親しむ。【慣れ親しみ】
- 世界の料理に興味をもち、欲しいものを尋ねたり言ったりする際、丁寧な表現があることに気づく。【気付き】

評価規準

- 相手意識をもって、丁寧な表現で欲しいものを尋ねたり答えたりしている。
- 丁寧な表現で欲しいものを尋ねたり言ったりしている。
- 世界には様々な料理があることや、英語にも場に応じて丁寧な言い方があることに気づいている。

表現

What would you like? I'd like~.

hamburger, omelet, hamburger stake, spaghetti, hotdog, pizza, sushi, sausages, fried chicken, curry and rice, French fries, natto, green tea, miso soup, rice, parfait, bread, cake, sandwiches, milk, salad, pudding, fruits, ice cream, yogurt, orange juice,

3 単元について

本単元では、欲しい食べ物を丁寧な言い方で尋ね合う場面を通して、コミュニケーションの大切さや楽しさを実感しながら活動することができる単元である。店の人と客に分かれて欲しいものを尋ね合うというコミュニケーション活動を通してこれまでに学習した、"What do you want?"より更に丁寧な表現"What would you like?"/"I'd like ~."を用いるようになる。それらを用いながら、相手の思いを理解しようとしたり、自分の思いを伝えようとしたりする中で、相手との関係を円滑にするためのコミュニケーションの良さや大切さを理解することができる。また、単元の終わりには、スペシャルランチ・メニューを友達に紹介していく活動をする中で、相手に理解してもらおうと工夫して話そうとする意欲が高まると考える。

本学級の多くの児童は、外国語を使って友達とゲームをしたり会話のやり取りをしたりすることを楽しいと感じている。また、コミュニケーション活動の場においてもほとんどの児童が単元のねらいである表現に気を付けて、聞いたり話したりしようとしている。やり取りの最初と最後の場面では、自然に"Hello."/"Good-bye."を言っている姿も見られるようになってきた。しかし、相手が伝えようとしていることは何かを考えて聞いたり、自分の考えや気持ちを何とかして伝えようとしたりする、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が見られにくい児童もいる。

指導に当たっては、本単元を通して"What would you like?"/"I'd like ~."を繰り返し話す場面を設定し、表現に慣れ親しませていきたい。導入では、既習の"What do you want?"の表現を復習していく中で、国語科の学習とも関連を図りながら始めにEAAから"What would you like?"というさらに丁寧な言い方を教えてもらう場面を設定する。2時目では、いろいろな食品や料理名を使って"What would you like?"/"I'd like ~."の表現を繰り返し話す練習をしていきたい。本時では、宿泊学習でも体験したビュッフェ体験を設定することで、表現を使う必要性を高め、表現に慣れ親しませていきたいと考える。さらに、家庭科で学習した3つのバランスのよい食品を選ぶ学習を生かし、そこで店員と客に分かれて会話することで、欲しい物の尋ね方や答え方を楽しみながら繰り返し表現し、慣れ親しむことができる。児童は、2学期に栄養士からもバランスのよい食事について教わってきた。そのため、バランスよい食品がそろっているかどうかを栄養士から確かめてもらう場や称賛してもらう場を設定することで、できたことへの満足感をもたせ、次時への活動意欲を高めていきたい。4時目では、本時での学習を生かし、スペシャルメニューを作ることをめあてにして、季節や行事に合ったメニューをつくることにしたい。また、単元を通して、担任、EAA、英語教育推進教師の3人が指導を行うことで、楽しんで広がりのある活動が可能になると考える。担任は、めあてを児童と確かめ、活動の様子を把握するとともに個に応じた支援を主に担当し、EAAは、発音の仕方や表現で注意することなどを担当、英語教育推進教師は、EAAや児童とのデモンストレーション、活動をつなぐ役割を担当するなど、それぞれの役割を明確にすることで、児童を見取り、きめ細かい指導ができるものと考えている。

4 単元の指導計画（総時数 4 時間）

時	目標と主な活動	評 価			評価規準（方法）
		コ	慣	気	
1	丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりする表現を知る。 ○ フルーツパフェづくり ・ What do you want?を想起する。 ○ 音声教材・EAAの説明 ・ What would you like? / I'd like ~.の表現を知る。			○	・ 改まった場面などでは、既習の What do you want?よりも丁寧な言い方である What would you like?があることに気づいている。 (行動観察・振り返りカード点検)
2	丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。 ○ 発音の練習 ・ いろいろな食品名を英語で話し、慣れ親しむ。 ○ 「ビンゴゲーム」 ・ What would you like? / I'd like ~.の表現に慣れる。		○		・ 丁寧な表現で食べ物や料理名を英語で言っている。 ・ 進んで食べ物や料理名を聞こうとしたり丁寧な表現を使おうとしたりしている。 (行動観察・振り返りカード点検)
3 ※本時	ビュッフェ体験を通して、丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。 ○ 「ビュッフェ体験」 ・ What would you like? ・ I'd like ~.		○		・ 積極的に欲しいものを丁寧な言い方で尋ねたり言ったりしている。 (行動観察・振り返りカード点検)
4	スペシャルメニューづくりを通して、丁寧な言い方で欲しいものを尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。 ○ グループでのクイズ活動 ・ What would you like? ・ I'd like ~.	○			・ 作ったスペシャルメニューをクイズにして、丁寧な表現で楽しく話したり聞いたりしている。 (行動観察・振り返りカード点検)

5 本時について

(1) 本時のねらい

欲しいものを丁寧な言い方で尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。

(2) 本時における手だて

① 子どもの学びや気付きをつなぐ単元設定・授業づくり

- ・ 家庭科の学習を生かし、栄養士から確かめてもらう場や称賛してもらう場を設定することで、栄養バランスのよい食品を選ぶことができた満足感をもたせ、次時への活動意欲を高めるようにする。
- ・ 振り返りカードに感想等を書かせ、点検、分析することで、子どもの思いを捉え、気付きをつないだり手だてを構想したりと、次時の学びへの方向付けに生かすことができるようにする。

② 本時のねらいに迫る活動・支援の工夫

- ・ 宿泊学習でも体験したことを生かし、お客さんがビュッフェに行って、食事をする時の具体的な場を再現することで、必要感を感じながら一人一人が楽しく英語で会話をすることができるようにする。
- ・ 児童の実態が把握できている学級担任、児童に異なった言語や文化を伝える役割のEAA,その両方の役割を併せもつ英語教育推進教師という3人の指導者の役割を明確にし、それぞれの立場から児童を指導、支援していくことで、児童がより安心して進んでコミュニケーション活動に取り組むことができるようにする。

③ 各ブロックの実態に応じた指導の工夫

- ・ 文法を意識した色カードを提示し、欲しいものを丁寧な言い方で尋ねる疑問文「What would you like ~?」を意識させる。

(3) 学習過程（別紙）

(3) 学習過程

※学E専栄は、それぞれ学級担任・EAA・英語教育推進教師・栄養士を表す。

学習活動	学級担任・EAA・英語教育推進教師	○指導上の留意点 ※評価規準 〈方法〉	準備物
1 ウォームアップ 〈5分〉 (1) あいさつをする。	○ 担任から授業スタートの声かけをする。 ○ EAAと児童であいさつをする。 ○ 英語教育推進教師と児童であいさつをする。	学・E・専 明るい雰囲気です授業を始められるようなあいさつをし、児童の学習への参加意欲を把握する。	
2 キッズタイム 〈35分〉 (1) 既習の表現を振り返りながら、めあてに迫る。 (5) ほしい物のていねいなたずね方や言い方になれよう。 (2) ビュッフェ体験のデモンストレーションを見る。 (10) (3) ビュッフェ体験をする。 (18) (4) 栄養士の先生の話聞く。 (2)	○ 前時に学習したやりとりを想起させる。 Q: What would you like? A: I'd like milk. Q: What would you like? A: I'd like hamburger, pizza and spaghetti. Q: Oh!! ○ メニューが主食のみに偏っていることに気づかせ、めあてに迫る。 ○ 店員役とお客役になって、3つの食品グループのコーナーに行き、欲しい物を尋ねる言い方や答え方を実際にEAAと英語教育推進教師がデモンストレーションする。 例) 主食コーナー 店員: Hello! 客: Hello! 店員: What would you like? 客: I'd like rice. 店員: Rice, OK? 客: Yes, please. 店員: (調理人へ) Rice, please. 調理人: OK, rice. (店員へ) Here you are. 店員: Thank you. (客へ) Here you are. 客: Thank you. ○ 3つの食品グループを意識した主食、主菜、副菜、汁物、デザート5つのビュッフェコーナーを設置し、店員と客にわかれさせ、交代で体験させる。 ○ メニューが完成した児童は、EAAとレストランでの会話を復習する。また、栄養士から、バランスのよいメニューができたかどうかチェックしてもらう。 ○ 担任は、特にバランスのよいメニューができた児童を紹介する。 ○ 栄養士から、バランスがとれた3つの食品を英語でも考えることができたことを称賛してもらう。	学 振り返りカードから児童の気付きを紹介し、本時のめあてにつなげる。(手だて①) ○ 児童が安心して活動に取り組めるよう、3人の教師の役割を明確にして支援体制を強化する。(手だて②) E・専 何が欲しいか丁寧に尋ねる表現の言い方や答え方を色カードを活用しながら復習する。(手だて③) 学 バランスのよい食品になっていないことに気づかせ、本時のめあてに迫る。 学 デモンストレーションで代表児童にも演示させる際、担任がサポートする。 ○ 出席番号をもとに店員役、調理人役、お客役を決め、交代しながら繰り返し会話させることで、尋ね方や答え方に慣れさせる。(手だて②) ○ トレーに見たてた画用紙に選んだ食品を載せ、一つ終わったら食品を意識した赤、黄、緑のシールを画用紙に貼る。 ○ 児童が選びそうな食品を事前に調査し、写真や絵を準備しておく。 E・専 店員役、調理人役の児童の支援をする。 学 客役を中心に、発音に自信のない児童や言い方の分からない児童を支援する。 栄 完成した児童の食品をチェックする。(手だて①) 学 全員が終わった段階で、特にバランスのよいメニューができた児童を紹介する。 ※ それぞれの役割で、積極的に友達に欲しい物を尋ねたり答えたりすることがきる。(行動観察) 学 栄養士から称賛されたことを受け、次時では季節に合ったスペシャルメニューを考える活動することを伝え、意欲をつなげる。(手だて①)	振り返りカード 色カード 画用紙 食品の写真(絵) シール
3 クールダウンタイム 〈5分〉 (1) 振り返りカードに感想などを書く。 (2) あいさつをする。	○ 振り返りカードに書いたことを、担任の指名により発表させ、本時をまとめたり、次時の活動につなげたりする。 ○ 担任から終わりのあいさつの声かけをする。	E・専 児童の態度や英語の発音についてよかったところを具体的に称賛する。 学 EAA・英語教育推進教師にお礼を伝え、コミュニケーション活動をしめくくる。	振り返りカード